

休業、大量解雇… 本当の危機はこれから来る

「8月大恐慌」

緊急シミュレーション

日経平均

9755.10

外為どっとコム

▶ 東電株で900億円評

▶ 東京のホテル稼働率

▶ 倒産件数は阪神・淡路

価損を抱えた生保 ▶ 「生産再開」自動車の部品在庫はGWまで

「2割3割が当たり前」 ▶ 日経平均実力は「8000円」

大震災の3倍ペース

株価は持ち直して来たが……

日経平均実力は
「8000円」

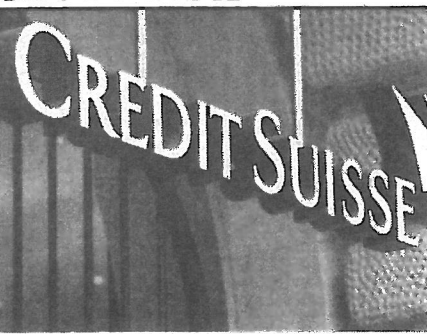
震災後、外資系金融機関
のCEO（最高経営責任者）
ら最高幹部が次々と来日し

（前出・経済部記者）
しかし、問題は東電株だ
けではないのだ。

ないともっともらしい解説
も流布しています。
民主党政権が続けば、J
ALと同様に株券は紙ク
ズ、大連立になれば、りそ
なと同様に公的資金投入で
V字回復も……これらも勝
手な憶測ばかりです。
保護が優先されるのは、
融資、社債、株式の順番。
株主まで救われるかどうか
は、正直わかりません」

東電株で900
億円の評価損を
抱えた生保

東京電力の株価は、震災
前の二千五百三十三円から暴
落を続け、一カ月で一時的三
百円を割り、東電の価値は
三兆円失われた。
「信用取引の売買残高が急



国債の防衛に必死な与謝野大臣

「史上最大のディール」がはじまるのか

増していることから、個人
投資家が参戦し、マネーゲ
ームと化していることがわ
かります。下げ過ぎで買い
戻しが入り、八、九、十一
日はストップ高となりまし
た。今後は再生スキーム
が決まるまで、上がった
下がったが続くでしょう
う」（経済部記者）

「増してきません」（第一生命
広報部）とのことだが、昨年
上場したために評価損は計
上しなければならず、決算
に響くことは避けられない。
東電は社債の発行残高も
膨大だ。四兆五千億円（一
〇年十二月末）に上るた
め、場合によっては株より
影響が大きくなる。
中小金融機関担当者も不
安な様子だ。

東電株は、個人株主が六
十万人（一〇年三月末）
と多いことが特徴だ。
「景気に左右されない『デ
イフエンス株』の代表で
した。五百万円投じれば、
年十万円程度の配当が出た
ため、高齢者の株主も多く
いましたが、彼らの多くが
株価暴落に、狼狽売りし
て、老後の資産を失ったと
言われています」（証券会社
社員）

「十年債を保有しています
がボロボロですよ。証券会
社の担当者に『今ならいく
らで売れる？』と聞いた
ら『売れたとしても七十円
（額面百円）ですよ』と。投
売りでもできない状況です」
東電の先行きが見えない
中で、メガバンクなど銀行
団は三月末、東電へ二兆円
の緊急融資を行った。

大株主の企業にも打撃を
与えた。第二位株主の第一
生命は、九百億円に上る評
価損が出ている模様だ。
「個別案件についてはコメ

「噂では、国と銀行の間に
『東電を救済する』密約が
あると言われていますが、
根拠はない。『東電株は年金
運用で買われているから』
とか『株主数が多いから』
という理由でゼロにはなら

関東大震災のあととは昭和恐慌、阪神・淡路大
震災のあととは九七年金融危機。震災のあとに
恐慌が来ることは歴史が証明している。東日

本大震災の爪痕も想像以上に深く長い。倒
産、解雇、休業…危機の足音は大きくなるば
かり。「8月大恐慌」その戦慄のシナリオとは。

た。クレディ・スイスのプ
レイディ・ドゥーガンCEO
は、日経新聞などの取材
に対し、三月十六日の二十
年物国債の落札額が最大だ
ったと明かした。
国債を巡って「史上最大
のディール（取引）」がは
じまる――。

発事故の損害額をスイスの
専門家が約三百六十六兆円
と見積もっています。CEO
がわざわざ来日して、低
利回りの国債を買うだけで
終わるのでしょうか？ 保有
を増やして一気に売られた
ら？ クレディ・スイスの
落札額が最大だったことは
、決して歓迎すべきこと
ではありません。日本国債
の暴落によって利益が出る
金融商品はすでに売られて
いるのです」

外資系金融機関では、噂
が飛び交っているという。
『日本国債 暴落のシナリ
オ』の共著者、田代秀敏ビ
ジネス・ブレイクスルー大
学教授が話す。
「国債の発行は限界に近づ
いているところに、福島原

西日本の信用金庫で国債
購入を担当している四十代
の行員が話す。

株価も国債も日銀が買い支え

「しばらく一・二％程度の
低金利が続いていたのに、
四月七日（木曜日）に利回
りが一・三％を超えたの
で、不気味でした。もし一
・五％まで急騰すれば青ざ
めるし、どこかの金融機関
が抜け駆けして売ったかと
疑心暗鬼になります」

日経が三月三十一日夕刊
のトップで「震災国債 日
銀引き受け検討」と報じた
時、利回りは上昇した。
「日銀引き受けは禁止手
で、国債の信用が落ちると見ら

日銀は買いまくっている（白川総裁）

東電の清水社長

東電株で大きく
損した第一生命

のメド立たず（下）

本田技術研究所（上）トヨタ
の豊田章男社長（右）

青森の老舗百貨店「中三」



はやぶさブームはわずか1週間だった

れたのです。与謝野経済財政担当相と野田財務相が慌てて否定して見せましたが、死んだ話ではない。いずれまた議論が復活するでしょう(前出・経済部記者) 前出・信用金庫の行員が続ける。

「我々のように小さな金融機関から見れば、国債は貨幣と同じ。直接引き受けは、日銀がお札を刷って貨幣を買い取ることと同じで、劇薬として効き目はあるでしょうが、国への不信感を招き、国債が暴落する可能性があります。」

そうでなくとも、日銀は株価が下がるたびに、ETFとリートを買って株価を支えており、これがなければ実質株価は八千円だと見えています。国債も利回りが上がるたびに、日銀が買い

支えている。非常時とはいえ、これは異常でしょう。国債の残高は、すでに七百五十兆八千億円に上る(二〇一一年十二月)。

欧州では、財政悪化国の国債が暴落し、ポルトガル国債の利回りは九%近くに達している。

「日本国債が暴落しないの

三月は車が売れる時期なのに

暴落しないのをいいことに政府が国債発行を続け、借金を積みまして来たために、暴落した時の衝撃は年々大きくなっている。

金融機関の中で、国債の保有割合が高いのは、生命保険会社だ。第一生命は国債を十兆四千億円保有し、十年国債の利回りが〇・一

「生産再開」自動車の部品在庫はGWまで

合計十六兆円を超す損失が出るレベルなのです(田代教授)

「東北の販売店は大きな被害を受けていて、気仙沼、石巻などは店が流れてしましました。メーカー側も売るものを用意できていない。一時期は半年待ちという状況だったエコカーも補助金がなくなつて、地震前は二カ月程度で納車できて

いたんですが、この地震でまた納車が見えなくなつてしまいました。

三月は決算期で、販売店も他の月とは比べようもないほど売れる月なので、それも痛かったですね。

被災地の販売店ではお客さんの安否と、保有している車がどうなっているかという確認から始めている。しかも、部品や資材は相変わらず足りず、とりあえず地震が起る前までに抱えていた部品を使うので、目処が立っているのはGWまで。工場が被災した電子部品メーカーでは、トヨタに迷惑をかけまいと設計図を他社に渡してまで注文に応えようとしたが、設計が複雑すぎるには作れなかったらしい。

国内メーカーが完全に通常の生産体制に戻るには、早くとも六カ月はかかるでしょう。その後も電力問題がついて回ります」

あの新日鉄釜石も、重要な自動車部品の供給工場だった。経済担当記者の話。

「釜石製鉄所は、自動車のタイヤに使われるスチールコード用線材の主力工場で

す。新日鉄の世界シェアは二五%ですが、釜石は津波の被害がひどいので、復旧には相当時間がかかるでしょう。四月中の復旧はまずない。他の工場での代替生産を考えているようですが、他の工場もその他の製品のためにフル生産しなくてはならない状況なので、なかなか難しいようです。

東北各地に散らばるタイヤメーカーの工場も、通常の五割くらいの生産状況なので、今すぐ足りない状況ではないようですが、これから生産が持ち直せば、品不足に陥る可能性はあります」

東京のホテル稼働率「二割三割が当たり前」

「ホテルはいま三重苦です。キャンセルが止まらない、新しい客が来ない、いつまで続くかわからない……」

東京の大手ホテル関係者はこう嘆く。業界はじまって以来の、大惨事、だとい

「実は、三月十一日までは本場に好調で、リーマンショック前の水準に戻り、稼働率も八割くらいまで回復していました。そろそろ料金を上げようと思った矢先にドンとやられてしまった(同前)」

東京の大手ホテルの三月の平均稼働率は、十一日までの好調分を含めても、五割を下回り、丸の内にあるシャングリ・ラ ホテルは一時休業に追い込まれた。「稼働率の実態は、二割三割が当たり前の状態です。『売り止め』といって使用

逆で、一連の原発報道を受けて風評被害も発生しているという。

「地震発生以降、ロシア向けの国内中古車に対して、『日本車は汚染されているから嫌だ』と買い手が敬遠しているんです(同前)」

二百人のパートを一気に解雇

浅虫温泉旅館組合の蝦名幸一組合長は力のない笑顔で、こう口にした。

青森市中心部から車で約三十分。陸奥湾に面した浅虫温泉は「東北の熱海」とも呼ばれる。昨年十二月に新青森駅まで東北新幹線が開通。今年三月五日には東京とを三時間十分で結ぶ「はやぶさ」が登場し、春を迎える温泉街には観光客が押し寄せるはずだった。

蝦名組合長が経営する全二十六部屋の「椿館」でも、二月、三月は閑散期なのですが、二月は前年比四〇%増、三月も地震前日の十日までは七〇%増でした。地震のあった十一日も満室だったのです」

震災直後、大阪、京都のホテルは、東京からの避難客で賑わいを見せたが、「景気が良かったのは一週目だけで、いまはもうダメ(同前)という。

最悪なのは、被災地の観光地だ。

「天国から地獄ですよ……」

観光シーズンを控えて、近くの海岸で、吉永小百合が夕日を眺める「R東日本のポスター」撮影も行われた。それがこの震災で一変した。

「新幹線が止まり、交通網が遮断されてしまいました。うちは三月のキャンセル分で千六百万円の売上がなくなりました。ある旅館では八月のねぶた祭の時期のキャンセルも出ています。きつと震災の影響は長引くのではないかと……」

頼みの綱の東北新幹線、全線復旧は余震の影響もあり、GWまでずれ込む。震災直前までの忙しさに新たな従業員を雇い入れていた旅館でも、自宅待機や解雇



倒産件数は阪神・淡路大震災の三倍ペース

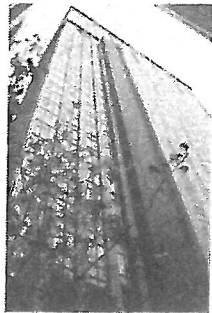
創業百十五年を迎えた地元老舗百貨店「中三」は三月三十日、青森地裁へ民事再生法の適用を申請した。

「前々から業績は思わしくなかったものの、この震災で不要不急の買い物が激減したことがあり、新たな仕入れの資金がなくなつた。

地震直後の三月十四日には、盛岡店でガス爆発が起り、一人が亡くなる事故も発生。地震でとどめを刺されたかたちとなりました(地元紙記者)

三月二十八日には都内初となる「震災が原因の企業倒産」も起きた。

「天国から地獄」だった浅虫温泉



花島電気産業の破産管財人、花島伸行弁護士が語る。

「本社は東京ですが、事業の実態としては、宮城県石巻市の工場で携帯電話や自動車用の電気部品を作っていました。工場自体は無事だったんですが、原材料の電線メーカーが被災したことで調達が出来なくなりました。月末の資金繰りが厳しくなりました。今後はユーザ側の企業に何とか工場を買ってもらい、雇用を維持できるようにお願いしていきたい」

東日本大震災から一カ月。経済へのダメージは、「地震、津波」のあった被災地から、「節電、自粛」の空気が蔓延する全国へと広がっている。

雇用も既に危機的だという話もある。

「工場のラインが三本から二本に減り、自宅待機を言い渡された。その間の給与

が出ていない」

群馬県の自動車部品工場で期間工として働く男性の訴えだ。NPO法人「労働相談センター」には震災後、このような相談が約百件寄せられている。

「被災地からの相談はそれほど目立たず、圧倒的に多いのは関東・首都圏です。自動車関連など製造業のほかにも飲食店や小売店など多岐にわたります。千葉県のホテルでは客が減ったからと、二百人のパートを一気に解雇したそうです」

（相談員の須田光昭氏）

ジワジワと広がる震災の影響と戦いをどこよりも実感しているのは被災地の金融機関だろう。

二店舗が冠水したという福島県いわき市のひまわり信用金庫は、融資先の多くももちろん被災している。「いわきの観光物産センター」「いわき・ら・ら・ミュージウ」が被災して休業しており、再開に向けて取り組んでいます。出店企業のうち十五社が弊社の融資先でした。平地区では、かまぼこ

などの食品関連工場が軒被災し、他の地区でも工場が被災しました。

さらに原発の風評被害はどうしようもなく、先行きがまったく見えません。い

八月には倒産。ペースが加速

こうした中、金融庁は金融機関に対して、融資返済の延期等を要請した。

だが、メガバンクの担当者

の見通しは悲観的だ。「言葉は悪いのですが、融資先がいま潰れても、半年後に潰れても、銀行の損失は半年分の利息が増える程度です」

しかし今後、店舗の建て替えや工場新設のための新規融資の申し込みが増える、銀行に不良債権がたまるリスクが出てきます。今回は企業の傷があまりに深く、消費も簡単に戻ってきそうにない。少々返済を待ったところで、企業が再生できるとは思えません」

関東大震災の後、中小企業が「震災手形」を次々に発行して銀行から資金調達したものの、結果として銀

わき市は原発から三十キロ圏に一部かかりますが、被害はそこに止まりません。より広い範囲で、支援融資制度の拡充などの支援を望んでいます」

行に不良債権が積み上がり、昭和金融恐慌につながる。その二の舞にならないとも限らない。

東京商工リサーチ情報本部副本部長の友田信男氏が解説する。

「阪神・淡路大震災のときは震災による倒産が、発生後一カ月で四件。それに比べて今回は十二件と、三倍のペースです。さらに地域も、八割が被災地だった阪神・淡路大震災とちがって、東北以外に散らばっているのが特徴です」

上野剛志・ニッセイ基礎研究所シニアエコノミストは、今後の企業生産の制約要因として「被災によるサプライチェーンの分断」と「電力不足」を挙げる。

「岩手、宮城、福島、茨城の四県は、食料品、化学、

電子部品等の出荷額が大きくシェアも高いため、全国への影響が大きくなっています。また電力不足により生産が制約され、企業の設備投資が控えられて景気が下押しされると、給料カットなど影響がさらに大きくなります」

被災地からの部品供給が滞れば、それに伴い別地域で部品製造の調整も起こる。だが、復旧が本格化しても、夏には深刻な電力不足となるのは間違いない。その影響で年率五十〜六十兆円規模の生産停止になるとの見方もある。

前出の友田氏が語る。「夏を乗り越えればという楽観論もありますが、来年の夏も電力不足解消の目処が立っておらず、深刻さは変わりません」

八月には震災による倒産件数が、今のペースから三割ほど加速するのではと危惧しています。今後、倒産件数が阪神・淡路大震災を上回るの確率は高いです」

大恐慌は遠い日の出来事ではない。数カ月後に待っている可能性もあるのだ。



皇后自らお電話で事前調査、被災地で訪問に意欲を見せる雅子さま

天皇皇后は埼玉県加須市をご訪問

新聞・TVではわからない

「ご交流」

「あとわずか十分早ければ遅刻にはならなかったのですが……」（皇室担当記者）

四月九日、学習院初等科で始業式が行われ、愛子さまは四年生になった。

「愛子さまが雅子さまと学校に到着されたのは、正門が閉まった直後だった。昨年三月の不登校問題発覚以来、全学年が一堂に会するような式典に参加されたのは初めてです」（同前）

十時台のご登校が続いていた愛子さまにとって、八時半登校、始業式ご出席は

「一歩前進」と言える。

「初等科では地震の影響で修了式ができなかったの、始業式の前に三年生の教室で式が行われ、成績表が配られました。愛子さまは修了式に出るために、いつもより早くいらしたのではないのでしょうか（学習

避難所）慰問は皇室の大切な公務。『キーン天皇陛下』と黄色い声で迎えられた天皇皇后はすでに二箇所をご訪問。『静養中の雅子さまも、予定を延長されて被災者と交流された。幸運にも言葉を交わした被災者の口からは感謝と感激の言葉が途切れることがない。』

院関係者

愛子さまはお帰りの時もこれまでとは違う様子を見せた。

天気が崩れ始め、傘をさしても雨が濡れるほど雨が降っていた十一時すぎ、門からお一人で出てきたのだ。「雨の中、愛子さまは紺色の、白い縁取りのある傘を揺らしながら、五分ほど雅子さまをお待ちになっていました。雅子さまが合流され、愛子さまの手提げ鞆を車に乗せたので、いつもの